

# 第1章 研究の意義－ベトナム民家調査と日本の民家緊急調査

吉田 靖

1997年に始まったベトナムの民家調査は99年3月までにバクニン省、トゥアティエン・フエ省、ドンナイ省の調査を終了した。私は調査開始にあたって計画策定の会合とバクニン省の現地調査に参加する機会を得た。また今回の調査方法の祖型とも言える日本の民家緊急調査（文化財保護委員会により1966年から約10年間継続）の立案と実施にかかわってきたので、この二つの民家調査について述べてみたい。

日本の民家緊急調査は、戦後、文化財としての価値を認められた庶民の住居、民家が1950年代以降、開発と生活の変化にともない急速に失われる危機にあたり、始められた。

1960年代、建築史の立場からの民家調査は大学を中心として行なわれ、対象とした地方の民家史を明らかにする成果をあげていた。しかし、これらは精密な調査であるものの、規模は数十棟以下、一つの村、町を対象とする狭い範囲にとどまっていた。したがって全国的には未調査の空白地帯が多く、民家についての情報は偏っていたと言える。

民家緊急調査は当時、全国で10万棟あるいは30万棟残っていたと言われる伝統的民家のうち相当数を地域的偏りのないようにリストアップし、これらを調査して文化財価値によりランクづけしようとしたわけである。

このような目的に対して調査可能な人々の数は少なく、時間、予算に制約も大きいものがあつた。そこで試みられたのがつぎのようなシステムであつた。

事業は県に対する補助金事業（40万円、期間1年間、後に100万円で2年間のものも行なわれた）とし、年間5県づつ行なう。

大学、研究機関の建築史専門家が主任調査員として事業を総括する。

調査のプログラムを3段階にわけると、

## 第1次調査

調査員 市町村職員、高校専門学校教員  
調査件数 500～1000件  
内容 簡単な調査表と写真

## 第2次調査

調査員 主任調査員とその属する大学、研究機関のスタッフ、県文化財関係者  
調査件数 100～200件  
内容 かなり詳しい調査表、略図、写真

## 第3次調査

調査員 第2次とほぼ同じ  
調査件数 20～50件  
内容 詳しい調査表、実測図、価値評価、保護に関する情報、詳しい写真

指定 第3次調査対象のなかから10～20件を選び、文化財保護委員会の職員が直接調査して重要文化財指定の候補を決める。県、市町村も第1～3次調査のデータを参考にし、それぞれ指定の候補を決める。

この調査が全国を一巡した10年後、民家指定件数は飛躍的に増加した。行政的調査ではあつたが結果的には民家の史料が全国規模で蓄積されその多くが公刊されたので民家史の発展にも役立つこととなった。これはひとえに関係者全員、とくに調査の中心となった大学、研究機関の努力の賜であつた。

つぎにベトナムにおいて民家調査の始まった1997年頃の状態についてふり返ってみたい。当時ホイアンの町並み、フエの王宮、ハノイのオペラ座、あるいは儒学の旧校舎などについて保護の事業は活発に行なわれていた。しかし民家、とくに農村部のものについては関心が薄く保護のシステムも日本のように明確には機能していなかったように見受けられた。また民家を建築的、歴史的な立場から調査、研究する人の数も多いとは言えなかつた。これに加え、農家に住む人、地方の文化財関係者など地元の関心もいま一つで、なぜこういうものを詳しく調査しなければならないのかという疑問もあつたらしい。

このような状況のもとでベトナム民家調査のシステムは基本的には日本の民家緊急調査に近いものが適していると考えられた。各地に分散する多数の対象から良いものを選び出すには段階的な調査は無理がないし、各段階で地方の人々も調査に加わることは好ましいことである。ただし調査の中心となる専門家が少ないことから日本からも研究者が当初から加わり、共同で調査し、対象地域も1～2省に限定して行なうことになった。

調査の学術的成果は他の章に詳しいのでここでは他の面についてふれたい。

一つの成果はベトナムと日本の研究者が同じフィールドで調査し、話し合った結果、専門的知識の交換に加え、文化財に対する見解、それを取りまく環境、条件などについて相互の理解が深まったことである。

一つは調査の過程でその家に住む人、村の人達と接し、

調査家屋の価値を説明するに従って徐々に自分達の村に残る民家の素晴らしさを認めてくれるようになりこれを大切に  
にする意識が芽生え始めたことである。

さらに、今回の調査に参加した若い学生達、技術者達が調査技術を高めると共に農村建築に対する関心も高めたことである。1998年までの調査地域はベトナムのごく一部に過ぎないが、将来はこのような若い人達を中心に調査、研究、保護、活用の輪が広がることが期待される。

最近いくつかの民家の修復が今回の調査成果を踏まえて始ったという喜ばしいニュースが入った。ベトナムの民家が消えることなく、その素晴らしさを世界の人々が知り、楽しむことを望んでやまない。